千葉学習センター客員教員による

「ミニゼミ」受講生募集！

「ミニゼミ」は放送授業や面接授業と違い、少人数で教員を囲みながら、各教員の専門分野をテーマに、発表、討論、実験、観察、課外活動など様々な学習スタイルで行われています。年齢や性別も異なる学生のみなさんが、指導教員のもと、共通のテーマを学びながら毎回楽しく活動しています。興味のあるテーマを学ぶとともに、他の学生や教員と交流していただくことも目的としていますので、試験や成績判定といったことはありません。２０２６年度後期は１２講座のゼミを開講し、１２講座のゼミで受講生を募集します。放送大学の学生であれば、どなたでも無料（一部ゼミは費用負担あり）で参加できますので、ご興味のある方は、是非お申込みください。なお、
２０２０年度より Zoom を利用した遠隔ゼミを実施するゼミがありますので、ご自宅等のネット環境等をご確認願います。

【参加申込方法】　　１０月１０日（土）１４時から申し込みを開始します。

① 「ミニゼミ参加申請書」（千葉学習センターウェブサイトトップページ・ロビーなどで配布）に必要事項を記入のうえ、学習センター窓口もしくはメールにてご提出下さい。メールアドレスは「chibagaku_soumu@ouj.ac.jp」です。
※原則先着順とし募集定員がオーバーした場合は、その時点で募集を終了します。また、電話、郵送等での受付は行いません。

② 申請書の提出後、学習センターより各講師へ申請書を送付し、講師から受講の可否について回答があり次第、センターより結果および次回開催日時をご連絡します。
※掲載内容は、２０２６年１０月１０日（土）現在のものです。今後、定員に達した時点で募集を中止します。
※見学も随時募集中です。気になるミニゼミがございましたら、お電話もしくはメールにて千葉学習センターまでお知らせください。

《千葉学習センター》
TEL: 043-298-4367
E-mail: chibagaku_soumu@ouj.ac.jp

保健の授業を学び直す（高橋先生ゼミ）



〇講　　師：高橋　浩之（放送大学千葉学習センター所長）
〇募集定員：１０名程度
〇開催日時：第１、第３水曜日の１４時～１６時
相談の上、変更する場合もあります。新入生初回１０月２１日(水)１５時３０分から。
〇内　　容：皆さんの多くは「保健」を中学・高校で受けた退屈な授業と考えているでしょう。しかし、実際には、新たな感染症から最新のがん治療、性についての自己決定から高齢者の健康、心肺蘇生法から医者のかかり方など、面白い上に人生の基盤になる内容を保健は扱っているのです。このゼミでは、高校の教科書を題材にその背景やさらに深い知識、また、発展的な内容に関してみんなで学んでいきます。
〇受講条件：大修館書店の高校保健体育教科書「現代高等保健体育」（保体０５０－９０１）を教材とします。定価は７６６円です。教科書特約店でのみ売っているので、各自用意して下さい。

『感染症と健康を考える』～「社会と感染症」スピンオフ～（潤間先生ゼミ）



〇講　　師：潤間　励子（千葉大学教授）
〇募集定員：１０名程度
〇開催日時：後期：１０月２４日（土）、１１月２８日（土）、１２月１９日（土）、１月３０日（土）、
３月６日（土）いずれも１４～１６時頃まで　の予定
〇内　　容：毎年後期に、千葉学習センターで「社会と感染症」という面接授業を行っています。そこで、討論し尽せなかったテーマについてミニゼミで討論したいと思います。感染症が社会や人間にどのような影響を与えてきたかを探求します。
①話題提供②質問や討論③次回のテーマ決めという手順で進めたいと考えています。
質問や討論の中で、医療専門職が考える感染症と、一般市民の方がとらえる感染症とその対策の差分を明らかにしていきたいと思います（前期は感染症と人類 ―過去・現在・未来―）というタイトルで開講していました）
〇受講条件：非医療専門職向け/面接授業「社会と感染症」の受講の有無は問わない/オンライン参加可能であること

地層の縞模様から読み解く大地の成り立ちと地球環境変動史（伊藤愼先生ゼミ）



〇講　　師：伊藤　愼（千葉大学名誉教授）
〇募集定員：１０名程度
〇開催日時：原則として月１回、第２または第３土曜日１３時～１５時で実施予定。１０月１７日(土)。
〇内　　容：地層には様々な形、厚さ、長さ、高さなどを示す縞模様が観察されます。このような縞模様は「堆積構造」とよばれ、地層を構成する粒子が運搬され堆積するまでの一連のプロセスの特徴を記録しています。したがって、「堆積構造」の特徴から地層を形成した流れの種類、方向、速さや強さ、深さや厚さなどの特徴を解読することができます。さらに、「堆積構造」からは、地層が形成された堆積環境の変遷やその要因を解読することもできます。
このゼミでは、講義や文献の輪読、受講生が興味を持っている地球科学に関するテーマのプレゼン、さらには室内実験や日帰りの野外観察会（巡検）などをとおして、「堆積構造」の特徴と形成プロセスの理解を深めるとともに、地層や岩石から読み取れる大地の成り立ちや太古から現在に至る地球環境変動史の理解を目指します。

〇受講条件：室内実験や地層の野外観察を行うため、学生保険の加入が必要となります。
年に３回程度野外巡検（地層や岩石の野外での観察会）を実施する予定です。野外巡検では、トレッキングシューズとヘルメットの着用を原則とします。ヘルメットは、千葉学習センターから借用できます。巡検に参加される場合には、別途、実施要項などを本ミニゼミのメーリングリストを使って連絡します。

色と光の科学（三野先生ゼミ）



〇講　　師：三野　弘文（千葉大学教授）
〇募集定員：１５名
〇開催日時：１０月１８日（日）、１１月２９日（日）、
１２月２６日（土）、１月３０日（土）、２月２０日（土）、３月２０日（土）
いずれも１３時～１５時（変更がある場合は事前に連絡します）
〇内　　容：テキスト「物理と化学で読み解く色彩の起源　色と光の科学　小島憲道／末元徹著　講談社」を用いて、光が関係する科学について講義を行います。各章によっては、実物の観察や、ＰＣを用いたシミュレーション体験なども行う予定です。

〇受講条件：受講にあたり特別な履修条件はありません。テキストに沿って講義を進めるため、事前にテキストを準備しておくことを推奨しますが、テキストがなくても受講は可能です。本授業では、理解を深めるために簡単な観察やＰＣを用いたシミュレーション体験を行う予定です。そのため、可能であれば放送大学のネットワークに接続可能なＰＣを各自で持参・利用できる環境であることが望まれます。

日常の風景を読み解く（八馬先生ゼミ）



〇講　　師：八馬　智（千葉工業大学教授）
〇募集定員：５名程度
〇開催日時：原則として、月１回、土曜日の１３時～１５時を予定
１０月１７日（土）、１１月１４日（土）、１２月５日（土）、
１月２３日（土）、２月２０日（土）、３月２０日（土）
〇内　　容：日常に埋もれた風景の構造や意味を読み解いていくゼミです。街を歩き、写真を撮り、それを見返し、考えることで、これまで見過ごしてきた現象や違和感に気付くことができます。こうした「観察」「考察」「洞察」のプロセスを重ねることで、風景の見え方は大きく変わります。その体験は、身近な環境の再発見や、地域や社会に内在する文化への理解につながっていきます。
本ゼミでは、提示する課題に基づいてフィールドワーク（まち歩き）を行い、数多くの写真を撮影・編集し、その成果を発表・共有します。視覚と言語のあいだを往復しながら、自らの審美眼を育てていきます。
〇受講条件：ゼミ時間外に各自でフィールドワーク（まち歩き）を行います。その成果として、スマートフォンやデジタルカメラで写真を撮影し、アプリ等で編集したうえで、指定の場所にアップロードしていただきます。これらを行うための環境が必要です。
参考書として『日常の絶景　知ってる街の、知らない見方』（八馬智、学芸出版社）を使用します。また、フィールドワークを伴うため、学生保険への加入が必要です。

ヴァイオリン・アンサンブルの楽しみ（伊藤誠先生ゼミ）



〇講　　師：伊藤　誠（埼玉大学名誉教授）
〇募集定員：２名まで
〇開催日時：毎月木曜日（月３回開講）　初回：１０月１５日（木）１１時-
〇内　　容：楽器の構え方や正しい姿勢、手入れの仕方などから始まり、音程づくりの初歩は指で弦を弾くピチカート奏法によって開始します。左手の型が身に付いてきたところで、弓を使った音づくりに進みます。わらべうたや童謡を用いて簡単なアンサンブルの形態を取り入れながら楽器に親しんで頂きます。個別指導と集団学習を併用しますが、毎回の時間配分は（１）１１時から１２時、（２）１３時から１４時３０分、（３）１４時４５分から１５時３０分です。（１）と（３）は全体指導（＝集団学習）、（２）のみ個別指導（＝個人レッスン）です。課題（教材曲）は、メールによるファイル添付のデータを各自印刷して持参して頂きます。特に購入して頂くテキストはありません。

〇受講条件：通常は「ヴァイオリン学習未経験者も大歓迎」なのですが、来年３月に千葉市美浜文化ホールにて公開による音楽会を予定しているため、今回の初心者の受け入れ枠は設けません。すでに楽器をお持ちで、少し学習経験のある方のみ入部が可能です。現在のゼミ生は２３名で、すでに３つのグループ分けができています。したがって、毎月の全体指導は３回とも同じ内容です。

ピアノを通して音楽を学ぶ（大人のピアノゼミ）（兼古先生ゼミ）

定員満了のため募集終了



〇講　　師：兼古　勝史（明治学院大学文学部非常勤講師）
〇募集定員：２名
〇開催日時：原則月３回、木曜日１４時３０分～１７時００分　初回：１０月１５日（木）１４時３０分～
〇内　　容：　本ゼミでは、ピアノ音楽の実演や鑑賞、表現を通して、多様な音楽について学び深めます。講義も交え、集団でのピアノ（センターの電子ピアノ、電子キーボード等を用いる）の演奏（合奏、即興演奏）や順番での個人指導（公開レッスン形式）を行う予定ですが（ゼミ生の状況や習熟度に応じて判断します）、いわゆるピアノ教室のようにピアノ演奏技術の上達や演奏の専門家の育成が目的ではなく、ピアノを通して多様な音楽への理解（クラシックから現代音楽。ジャズの初歩など）を深めることに主眼を置きます。ピアノの未経験者、初心者から中級者が対象です。楽譜は、最初は必ずしも読めなくても参加可能です（読譜の指導もします）。使用できる楽器の台数に限りがあるため定員を制限し、担当教員のゼミの未経験者を優先とします。

〇受講条件：　未経験者、初心者でも参加可能です。楽譜は最初は必ずしも読めなくてもかまいません。自宅にピアノ、キーボード等がなくても参加できますが、課題や練習のため、廉価なキービードなどの購入をおすすめします。センターでの機材（楽器）使用台数に限りがあるため、担当教員のゼミの、未受講者を優先します。
夏休み、春休み期間中は、変則的（地方への見学等を含む）な形になる場合があります。

生活環境中のカビ（矢口先生ゼミ）



〇講　　師：矢口　貴志（千葉大学真菌医学研究センター准教授）
〇募集定員：１０名程度
〇開催日時：土曜または日曜日の午後の２～３時間　初回１０月１０日（土）
〇内　　容：月１回、講義のあと討論するセミナー、残りの時間は、それぞれが自由に観察、実験など行う。
現在、予定しているテーマは以下の通りである。
１．真菌の分類体系　　２．Aspergillus の分類　　３．Penicillium の分類　　４．室内環境のカビ
５．内臓真菌症原因菌　６．皮膚真菌症原因菌　　７．カビ毒　　８．カビが産生する有用物質
９．耐熱性カビ　　１０．マイセトーマ（皮膚病）の検出
〇受講条件：実験室で培養実験等も予定していますので、これらの活動に参加ご希望の方は学生保険への加入が必要です。

振動・波動現象を学ぶ（藤本先生ゼミ）



〇講　　師：藤本　茂雄（千葉大学国際未来教育基幹）
〇募集定員：１５名程度
〇開催日時：原則として月１回、土曜日または日曜日の１３：００～１５：００までの予定。初回１０月２５日（日）
〇内　　容：振動や波動現象はばねや、振り子、楽器における弦や膜の振動や光など、身の回りのあちこちに現れます。このミニゼミでは大学初年次向けの標準的なテキストを用いて「振動・波動」に関する基礎的な講義をゆっくり行います。内容によっては PC を用いたシミュレーション体験も予定しています。
〇受講条件：小形正男著『振動・波動』（裳華房）　をテキストとして用います。基本的にテキストに沿って進めますが、テキストがなくても受講は可能です（すでに類書をお持ちで、そちらで代替する場合など）。また可能な方は、各自の PC を放送大学のネットワークに接続して利用できるように、PC の利用環境の準備をお願いいたします。

薔薇学講座（御巫先生ゼミ）



〇講　　師：御巫　由紀（千葉県立中央博物館）
〇募集定員：１５名程度
〇開催日時：原則として毎月第３土曜日１３時～１５時
〈年間予定〉

１０月１７日（土）	秋のバラ園見学１	@横浜イングリッシュガーデン（午後開催）
１１月２１日（土）	秋のバラ園見学２	@京成バラ園（午後開催）
１２月１９日（土）	バラの歴史	@千葉県立中央博物館
１月１６日（土）	江戸時代のバラ１	@千葉学習センター
２月　６日（土）	江戸時代のバラ２	@千葉県立中央博物館
３月２０日（土）	研究発表会	@千葉学習センター

〇内　　容：園芸植物として長い歴史を持つバラについて、植物学、歴史、美術等あらゆる面から、バラの魅力を解説する。バラは西洋文化の象徴のように思われているが、約２００年前にアジアのバラがヨーロッパに運ばれ、育種に用いられて初めて現代の栽培バラが誕生した。日本に１６種類ある野ばらの見分け方、バラの育種において日本の野ばらが果たした役割、オールドローズとモダンローズの系統、日本のバラの歴史等について、教室での講義とバラ園の見学を合わせたゼミを行う。
〇受講条件：・野外実習を行うことがあるため、学生保険加入が必要。
・『野ばらハンドブック』（文一総合出版）をテキストとして使用。
・バラ園等でゼミを行う場合は入園料等が必要となる場合がある。

私の推しの古典文学（柴先生ゼミ）



〇講　　師：柴 佳世乃（千葉大学教授）
〇募集定員：５名程度
〇開催日時：原則として毎月１回、水曜日１３時～２時間程度。
適宜相談の上、日にちを決定するが、およそ第４水曜に開催予定。
１０月２８日（水）１３時～
〇内　　容：古典文学には、古くて新しいいろいろな要素が詰まっています。日本の古典文学の中で（どの時代でも結構）、自分が興味を持っている／気になる／これから読んでみたい作品を各自取り上げ、その特徴や面白さについて、自由に発表してもらい、皆で議論します。
自分の〈推し〉の古典文学の特徴を再発見するとともに、たくさんの作品に触れることで、多様な古典文学の面白さを皆で議論します。

〇受講条件：１年に一度はミニゼミ参加者全員に発表をしてもらう予定です。人文系の調べ方、工具書の使い方、資料の作り方は、受講者に応じてご指南します。まずは自分のやりたいように調べ考察して発表し、それをもとに皆で議論します。自分でチャレンジして「楽しむ」のが一番です。そうすると、新しい世界がどんどん拓けてきます。文学が好きな方、自分の引き出しをより充実させたい方、新しいものに触れてみたい方、どうぞご参集下さい。
以前に開講していた「仏教儀礼を知る、考える、味わう」を発展的に引き継ぐものです。古典文学には仏教と関わる作品が多く、あるいは仏教書そのものを取り上げるのでもＯＫです。ご自由に作品を選んで下さい。

ジェンダー・セクシュアリティについて考える（片岡先生ゼミ）



〇講　　師：片岡　洋子（千葉大学名誉教授）
〇募集定員：１０名程度
〇開催日時：参加者と日程調整の上、月に１回程度（たいてい木曜日午後に）開催しています。
新入生初回　１１月５日(木)１３時３０分～１５時３０分　テキスト第６章
〇内　　容：ジェンダー・セクシュアリティについての世界と日本の課題について考えるため、関連した本を読みます。
2026 年度は、堀川修平『「日本に性教育はなかった」という前にーブームとバッシングのあいだで考える』（柏書房）
〈これまで読んできた本〉
2025 年度：守如子・前川直哉編『基礎ゼミ ジェンダースタディーズ』（世界思想社 2025 年 1900 円税別）
2024 年度：三浦まり「さらば、男性政治』（岩波新書 2023 年）、千葉勝美『同性婚と司法』（岩波新書 2024 年）
2023 年度：神谷悠一『差別は思いやりでは解決しない ジェンダーや LGBTQ から考える』（集英社新書 2022 年）
辻村みよ子『ポジティヴ・アクション』（岩波新書 2011 年）
Zoom を利用した遠隔で実施しています。